

相談支援つうしん



県立湘南支援学校
支援連携グループ
相談支援班 第8号
令和7年1月28日(火)

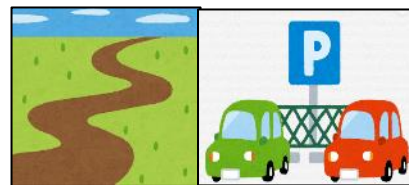
白梅や黄梅がいい香りを漂わせ、益々空気が冷たく感じます。新年のご挨拶が遅くなりましたが今年もどうぞよろしく願いたします。

【今回のテーマ・・・行動上の問題について part3 逃避・攻撃（未来を見せる）について】
今回は、「行動上の問題について（問題行動）」の話題として「注目」のお話をしました。今回は、三つ目の「逃避・攻撃（未来を見せる）」についてお話しさせていただきます。逃避・攻撃は「不安の表れ」として出る問題行動です。特に人は、過去と未来に不安を感じます。この不安に対して「未来を見せる」ように支援をすること（予防的な支援）が逃避や攻撃といった問題行動を減らすことにつながります。それでは実際に行った「未来を見せる支援」についてご紹介します。

○小学部のころ・・・6年生のAさんは、スクールバスのバス停から車が止めてある駐車場まで100mほど、お母さんにおんぶをしてもらっていました。お母さんは、「大きくなったAさんを毎日おんぶするのは大変だがどうしたら良いのか...」と初めて相談してくださいました。

担任の私は、さっそく本人と一緒にバスに乗り様子を見せてもらいました。そして、その様子や駐車場までのルート等を写真に撮って支援策を考えました。

「お母さんにおんぶされている」写真と「お母さんと手をつないで歩いている」写真を並べて紙に張り付け、赤字で×と青字で○を書きました。また、バス停から駐車場までルートの写真を順番にリングで止めて、どの道をどの順番で歩くのかが分かるようにしました。



次の日、本人と個別の学習時間に作った支援グッズの写真を見せながら、『手をつないで歩いてほしいこと』と、『駐車場までのルート』を本人と勉強しました。そして、下校時に一緒にスクールバスに乗り「カッコイイ6年生のAさんはお母さんと手をつないで歩くよね」と念押ししてからバスを降り、駐車場のルートを一枚ずつ確認しながら三人で駐車場まで向かいました。「さすがだね。カッコイイな！えらい！」とお母さんと一緒にたくさん褒めながら駐車場に到着し、無事大成功！その後は、毎日お母さんと歩いてバス停と駐車場を行き来することができました。

そんなAさんから「春には三十路です 母より」と今年も年賀状をいただきました。

○中学部のころ・・・

中学部2年生のBさんは、電車で自力通学をしていました。電車が好きで、その日は学校ではなく、電車を乗り継ぎ乗り継ぎ、結果新幹線で静岡まで...。「また同じことが起きては困るので、どうしたら良いだろうか？」と担任から相談を受けたので、4コマ漫画を作って本人にお話しました。

《構図 A》 今回の NG パターン



① 学校に行こう！



② もっと電車乗りたい



③ おなかがすいた、
どうしよう？



④ わるいひと！こわい！
お母さんあえない！

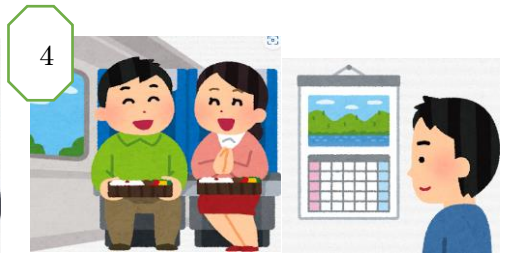
《構図 B》 OK パターン



① 学校に行こう！



② 学校で勉強



④ 土日 いっしょにお出かけ

4 コマ漫画のお話を本人に伝え、カレンダーワークもしながら「いつお出かけができるのか」を理解してもらうことで、同じようなことは無くなりました。素晴らしい！

○ 高等部のころ・・・

現場実習中に、「行きたくない」と布団の中に閉じこもってしまう事例もとても多くあります。「実習が怖い。。失敗したらどうしよう。。」＝「行かない」

今回のエピソードもそうですが、逃避や攻撃といった不安の表れは、その先の未来が見えない中でおきることが多いです。子どもへの支援において、脳の情報処理容量の少なさにも原因があり、まずい振る舞いが起こした後に正しい情報を脳に入れることは難しいです。一度情報処理をリセットした上で、正しい振る舞い方を事前に予告して、すべきことをインプットすることが大切になります。子どもたちに、見えないもの（時間 段取り 活動 気持ち 夢・・・）を見える化し、安心して行動できるように「未来を見せる」ことが支援のポイントになると思います。



【ちょっと休憩】 「力と意欲」



前回母の帰宅に伴い「お餅」のことを書きましたが、無事に何事もなく大好きなお餅を「おいしいわね～」と言いながらたくさん食べていました。「あーよかった、よかった。」

実際に母と生活すると、色々な場面で「力が落ちたな」と感じました。年末に転んで鼻の骨を折ったこともあり、噛む力が弱まり表情筋も落ちていました。好きなお寿司も残すので、観察するとウニの巻き寿司等は海苔が噛み切れないうでした。硬い物や繊維質の物は難しいようで、柔らかく再加熱したり、繊維物の素材を除いたり、口のサイズの半分くらいにカットしたりと工夫しました。そのせいもあってか、最終日に母のオーダーで焼きそばと一緒に作ると、それはよく噛んで食べていました。握力も落ちていましたが、双子のひ孫を抱く時はしっかりと力を入れて抱き続けることができ、「絶対落とせない」と思う気持ちは抱き方に現れていました。4世代みんなで家族写真を撮り、入居先の皆さんに見せている母です。意欲は大事ですね。

○ 今回のような支援策は、うまくいく場合もそうでないこともあります。試行錯誤が必要ですので、気になることやご心配なことがありましたら、お気軽にご連絡ください。 文責 橋爪